

いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 2 孔子	春秋戦国時代の諸子百家の一人であり、武力による統治ではなく、礼節と「仁」の心に基づいた道徳政治を提唱しました。彼の教えは後に「儒教」としてまとめられ、日本を含む東アジア諸国の政治理念や道徳観に深く浸透することとなりました。
問2	答え 2 スペインがこの地域を植民地として支配し、自国の言語や宗教を広めたため	15世紀末から始まる大航海時代、スペインは金や銀などの資源や領土を求めてアメリカ大陸へ進出しました。特に南アメリカ大陸の太平洋側に位置する地域（現在のペルーやチリなど）を広範囲にわたって植民地として支配したため、支配国であるスペインの言語やキリスト教（カトリック）が定着し、現在まで続く文化的な基盤となりました。
問3	答え 3 ポリス	古代ギリシャでは、険しい山々や海岸線によって地域が分断されていたため、一つの大きな統一国家ではなく、アテネやスパルタのような「ポリス」と呼ばれる小さな都市国家が各地に形成されました。各ポリスは独立性が高く、それぞれが独自の政治や軍事体制を持っていました。
問4	答え 1 エジプト文明 - ナイル川 - 象形文字（ヒエログリフ）	エジプト文明は「ナイルのたまもの」と呼ばれる通り、ナイル川の定期的な増水がもたらす肥沃な土壌によって発展し、パピルスなどに記される象形文字を使用しました。メソポタミア文明はチグリス・ユーフラテス川、インダス文明はインダス川、中国文明は黄河や長江の流域でそれぞれ成立しており、河川と文明の正しい対応を把握しておくことが重要です。
問5	答え 2 ナイル川の氾濫時期を知るために天文学が発達し、太陽暦が作られた。	エジプトは「ナイルのたまもの」と呼ばれるように、ナイル川の定期的な氾濫が肥沃な土壌をもたらし、農業を発展させました。この氾濫の時期を正確に知る必要から天文学が進歩し、太陽暦が生まれました。他の選択肢にある楔形文字、60進法、1週間を7日とする制度はメソポタミア文明の特徴であり、都市国家（ポリス）や民主政治は古代ギリシャの特徴です。
問6	答え 1 イギリスによる植民地支配を受け、支配国の文化や建築様式が強く反映されたため	18世紀後半から始まったイギリスによるオーストラリアの植民地支配により、都市計画や建築においてもヨーロップ様式が導入されました。メルボルンの石造りの建築や教会の存在は、当時の支配国であったイギリスの影響を色濃く示しており、植民地時代の歴史的背景を物語っています。
問7	答え 3 広大な領土を統治するために、軍隊の移動を支える道路網や、都市生活に不可欠な水道などの公共施設が整備された。	西暦1世紀頃のローマ帝国は「パクス・ロマーナ（ローマの平和）」と呼ばれる最盛期にありました。広大な帝国全域に張り巡らされた「ローマの道」は軍隊の迅速な派遣を可能にし、都市部では高度な土木技術を用いて水道橋などの公共インフラが建設されました。メソポタミアの楔形文字やギリシャの民主政治は紀元前の出来事であり、ルネサンスは14世紀以降の出来事であるため、時期が一致しません。
問8	答え 1 黄河の流域で、高度な技術を用いた青銅器が作られ、占いなどの記録のために甲骨文字が使用された。	中国文明は、紀元前16世紀ごろに黄河流域で興った「殷（いん）」などの王朝を中心に発展しました。この文明では祭祀のために精巧な青銅器が作られたほか、亀の甲羅や牛の骨に刻まれた甲骨文字が使われており、これが現在の漢字の原型となりました。他の選択肢はメソポタミア文明、インダス文明、エジプト文明の特徴を示しています。
問9	答え 3 大陸から伝わった技術により、高温の窯で焼かれた灰色で硬質の須恵器が作られるようになった。	古墳時代には、朝鮮半島から渡来した人々の技術によって、従来の赤褐色の土器（埴輪や土師器など）とは異なる、窯を用いた高温焼成の「須恵器」が生産されるようになりました。磨製石包丁は弥生時代に稲刈りの道具として使われたものであり、縄文土器は縄文時代の煮炊き用具、打製石器は旧石器時代の狩猟・加工用具であるため、それぞれの時代背景や用途と一致しません。
問10	答え 4 漢・唐・元	紀元57年に倭の奴国王が光武帝から金印を授かったのは「漢（後漢）」の時代です。その後、奈良時代の754年に鑑真が苦難の末に來日したのは、日本が遣唐使を派遣していた「唐」の時代にあたります。そして、1281年に九州北部で弘安の役が起きたのは、モンゴル帝国が国号を改めた「元」による侵攻によるものです。秦や明は、これらの出来事が起きた時期とは重なりません。
問11	答え 2 唐招提寺の建立 → 東大寺の再建 → 銀閣の建立 → 銀鋺山の開発 → 日光東照宮の造営	奈良時代には唐の僧・鑑真によって唐招提寺が建立されました。鎌倉時代になると、源平の争乱で焼失した東大寺が重源らによって再建され、大仏様という建築様式が取り入れられました。室町時代（15世紀）には足利義政により東山文化の象徴として銀閣が建てられます。その後、16世紀（戦国時代から安土桃山時代）にかけて石見銀山などの銀鋺山開発が本格化し、江戸時代に入ってから徳川家康を祀る日光東照宮が現在の華麗な姿に造営されました。
問12	答え 4 青銅器は主に祭りの道具などの宝物として使われたが、和同開珎は国家の権威を示し、建設費用をまかなう等の目的で発行された。	弥生時代の青銅器（銅鐸、銅剣、銅矛など）は、当初は武器の形をしていましたが、次第に大型化し、豊作を祈るなどの祭りの道具として用いられるようになりました。一方、奈良時代の和同開珎は、律令制のもとで国家の経済的基盤を固め、都の造営などの支出をまかなうために発行された貨幣です。資料の用途の変化は、単なる道具の進化ではなく、社会の仕組みが「村の共同体」から「統一国家」へと発展したことを示しています。